

京都ドイツ語学研究会

Arbeitskreis für Germanistische Sprachwissenschaft Kyoto

第96回例会のお知らせ

2018年8月25日

拝啓 残炎の候、皆様いかがお過ごしでしょうか。

さて、下記の要領にて第96回例会を開催致しますのでご案内申し上げます。今回は、下記のようなテーマで3人の方にお話しいただきます。万障お繰り合わせの上、ご出席くださいますようお願い申し上げます。

敬 具

京都ドイツ語学研究会

(<http://www.sprachwissenschaft-kyoto.com>)

記

日時：2018年9月22日（土）13:30～17:00（予定）

場所：キャンパスプラザ京都6階 京都大学サテライト講習室（第8講習室）

（Tel. 075-353-9111）

（JR 京都駅前を西に徒歩3分；京都中央郵便局の西側）

〔例会プログラム〕

1. 研究発表

「省略形」としての名詞文体

羽根田 知子 氏（京都外国語大学）

2. 研究発表

モダリティを考え直す

井口 靖 氏（三重大学）

3. 第36回言語学リレー講義

ドイツ語史の時代区分 —特に Frühneuhochdeutsch について—

福岡 四郎 氏（関西大学元教授）

以 上

それぞれの発表内容につきましては、裏面の「発表要旨」をご参照ください。

〔発表要旨〕

1. 「省略形」としての名詞文体

羽根田 知子 氏（京都外国語大学）

作文の授業などで、「ご招待下さってありがとうございます」をドイツ語に訳させると、学習者は大抵「ご招待下さって」の部分を動詞的に訳そうとする（Ich danke Ihnen für die Einladung.の代わりに Ich danke Ihnen (dafür), dass Sie mich eingeladen haben.のように）。名詞文体は Hans Eggerts (1973)の『20 世紀のドイツ語』（岩崎英二郎訳）以降、短い文章内に多くの情報を詰め込む新聞記事などの文体として、また機能動詞構文として議論されることが多かったように思われるが、本発表では名詞文体を「省略形」として捉え、日本語の動詞的表現対ドイツ語の非動詞的表現を日常的な表現において概観し、さらに名詞化不定詞 Einkaufen と動作名詞 Einkauf の使い分けについて、共に用いられる冠詞の用法と関連させながら考察する。

2. モダリティを考え直す

井口 靖 氏（三重大学）

モダリティの定義は研究者によってさまざまであるが、モダリティという概念を使う利点があるとすれば、話し手の心的態度に関わるとすることにより、さまざまな現象に統一的に説明を与えることができるからであろう。たとえば、疑問や否定の対象にならない、過去を表現しない、従属文中の使用に制限がある、などがあげられる。ドイツ語では、動詞の法、話法の助動詞、話法詞、心態詞などがモダリティ表現とされるが、それら制限にそぐわないこともあり、そもそも話し手の心的態度の表現なのかどうか疑いとなる場合も多々ある。今回は問題点を整理した上で、そもそもモダリティ表現とはどういう存在なのかということをも根本的に考え直してみたい。

3. ドイツ語史の時代区分 —特に Frühneuhochdeutsch について—

福岡 四郎 氏（関西大学元教授）

ドイツ語史の四分割を提起した W. Scherer 以後、ドイツ語史に関わる書籍が入門書も含め 20 冊以上出版されている。それらを順に紹介し、次にどのように時代区分されてきたかを説明する。J. Grimm がドイツ語の歴史を Althochdeutsch, Mittelhochdeutsch, Neuhochdeutsch と三分割したが、Scherer はその著 Zur Geschichte der deutschen Sprache (1875) のなかで次のような新たな時代区分を加えた：eine Übergangs- oder Frühneuhochdeutsche Zeit (1350 - 1650)。最近の殆どの語史は Frühneuhochdeutsch の時代区分を採用しているが、これを認めず、Neuhochdeutsch の時代を 1450 年や 1500 年からとする学説もあり、各々の主張を紹介する。